

つながりを生み出す図工ワークショップの実践と考察VI

——2024年度の実践を中心に——

佐伯育郎*

Art Workshops to Forming Connection with Someone VI: Focusing on Art Workshops in 2024

Ikuo SAEKI*

はじめに

筆者が担当する図画工作専修では、教材研究・題材開発を中心とした図画工作科・幼児造形に関する実践的研究、教師・保育者としての専門性を磨くことに力点を置いている。ゼミ学生^{註1)}との協働で図工ワークショップを毎年企画・実施している^{註2)}。

図工ワークショップに通底するテーマは「つながり(架橋)」である。図工ワークショップが微力ながらも様々なつながり、相互作用を生み出すと筆者は考える。具体的には、学校教育課程、越境空間、家庭・地域の3つの場を越境し結束する「ハブ(Hub)」としての役割を果たし、地域コミュニティにおける学びに連鎖や往還を生み出す一助になると考えている^{註3)}。これまでの実践では、大学と地域とのつながり、実践(題材)同士のつながり、ゼミ内でのつながりなどが生まれてきた。

本稿では、2024年度(以下、今年度)に行われた学内(広島市立可部小学校おやじの会との協働事業)、広島市祇園西公民館(以下、祇園西公民館)、5-Days こども文化科学館(以下、こども文化科学館)、広島市南観音公民館(以下、南観音公民館)を会場とした計4回の学内外・図工ワークショップの実践に関する省察をもと

に、どのような成果と課題が生まれたのか、検証する。

読者各位の忌憚のないご批正を賜りたい。

1. 計4回の図工ワークショップの概要 (1) 連携・協働した学外施設と実施日など

【表1：2024年度・図工ワークショップの実施施設・実施日時】

実施施設 ワークショップのタイトル	実施日時
広島文教大学 広島市立可部小学校おやじの会との協働事業「たのしくあそべるフクロウをつくろう！」	2024年6月15日(土) 13:00~15:00
広島市祇園西公民館 キッズ★サマースクール「カラフル恐竜とおさんぽ ~ガオカーを作ろう!~」	2024年7月31日(水) 10:00~12:00
5-Days こども文化科学館 「ヒュー!もののけ大集合」	2024年10月20日(日) 13:00~15:00
広島市南観音公民館 「なんかん子育て広場 げんきっずミニクリスマス会」	2024年12月4日(水) 10:00~12:00

2023年度と同様、広島市の2つの公民館、1つの科学館と連携・協働して実践した。今年度では、2019年度から5年振りに学内でも図工ワークショップを実施した。広島市立可部小学校おやじの会との協働事業として開催した。整理すると表1になる。

図工ワークショップの流れは、表2である。実践によって細かな違いはあるが、流れと時間

* 本学教授

設定は共通している^{註4)}。

【表2：2024年度・図工ワークショップの流れ（祇園西公民館）】

1	はじめのごあいさつ・せんせいのしょうかい	5分
2	絵本のみきかせ 今日のめあて ①ダンボールやいろがようしなどで、ガオカーをつくろう。 ②みんなでガオカーといっしょに、さんぼしよう。 ③みんなでガオカーといっしょに、しゃしんをとろう。 ガオカーのつくりかた 1. ダンボール、いろがようしをよういしよう。 2. ガオカーのからだをつくろう。 3. ガオカーのどだいをつくろう。 4. かお、かざりをつけて、かんせい！ 5. さんぼぼうをつくって、さんぼしよう！ 全体記念写真の撮影 今日のまとめ	110分
3	おわりのごあいさつ、アンケート回答・提出	5分

筆者とゼミ学生とで Microsoft PowerPoint によるスライドショーを事前に作成し、当日はプロジェクターでスクリーンに投影しながらゼミ学生が説明・進行を担当した。制作手順を5～6工程に分け、参加者の様子を見ながら2工程ずつ制作を進めた。

(2) 参加者

【表3：2024年度・図工ワークショップの参加者数】

会場	参加した子ども・保護者の年齢・学年（人数）	参加者総数
学内	3歳（1）4歳（1）5歳（1）小1（2）小2（2）小4（2）保護者（7）	16
祇園西	小1（6）小2（5）小3（3）小5（2）	16
こども文化	3歳（1）4歳（1）5歳（3）小1（2）小2（6）小4（1）保護者（10）	24
南観音	1歳未満（6）1歳（10）2歳（5）3歳（1）保護者（22）	44

当日の参加者は、表3である。学内は幼児・小学生、祇園西公民館は小学生、こども文化科

学館は幼児・小学生、南観音公民館は乳幼児と、対象はそれぞれ異なる。本学、こども文化科学館、南観音公民館では、活動中に保護者も同席した。子ども1～2人にゼミ学生（2～4年生）が1人つき、子どもの年齢・発達などに合わせて個別指導を行った。

2. 4つの図工ワークショップに持たせた共通点

今年度の図工ワークショップでは、表4の共通点・一貫性を持たせて実践した。それぞれの実践が独立せず、相互作用をもたらし、よりよい取組になるのではないかと考えたからである。

【表4：2024年度・図工ワークショップの共通点】

5つの共通点	学内	祇園西公民館	こども文化科学館	南観音公民館
題材	楽しく遊べるフクロウ	ガオカー	もののけ	ダンボリース
①身辺材	○	○	△	○
②モダンテクニック	○	○	○	○
③相互鑑賞	○	○	△	○
④絵本活用		○	○	○
⑤ Teaching Case 使用	○	○	○	○
⑥複数の基本形の提示	2	5	3	9

(1) 身辺材

主材料として身辺材を採用したことが、1つ目の共通点である。図工ワークショップでは、従来から一貫して日常生活にありふれた身近な材料を活用してきた。今年度の題材は、本学ではトイレトペーパー・キッチンペーパーの芯を用いたフクロウ・ミミズク^{写真1～3)}、祇園西公民館ではダンボールやペットボトルの蓋を用いたガオカー（ガオーと吠える恐竜をモチーフにした車・CAR）^{写真4～6)}、こども文化科学館では紙コップを用いたもののけ（おばけ・妖怪）^{写真7～9)}、南観音公民館では段ボールを用い

たリース「ダンボリース」(段ボール+リース)^{写真10-12}であった。いずれの題材も、ゼミ学生と筆者との協働で題材開発・教材研究を行い、参考作品を制作した。その後、参加者である子どもの年齢・発達段階に応じて最終形(1種類に絞らず複数)にまとめていった。こども文化科学館のものだけでは、身辺材の再利用ではなく、衛生面から市販の紙コップを使用した。市販の紙コップを用いたのは、図工ワークショップでははじめてのことであった。身辺材ではあったが廃材ではなく既製品であったため、表4では△で示した。主材料の紙コップに加えて、メラミンスポンジ(1辺3cmの立方体)も補助的に用意した。妖怪ぬりかべなどの制作に使用した。

(2) モダンテクニック

2つ目の共通点は、材料の1つとしてマーブリング、スタンピングなどのモダンテクニックを取り入れたことである。モダンテクニックとは、絵筆で直接描画する以外の様々な表現技法の総称である。マーブリング(墨流し)、ドリッピング(吹き流し)、スパッタリング(霧吹き)、スタンピング(型押し)などのモダンテクニックを施した紙を、ゼミ学生と筆者が事前に用意した。南観音公民館での実践では、作品に対して参加者の手によって直接スタンピング(型押し)を施して頂いた^{写真10}。野菜の訳あり商品や端材を使ったスタンプ、ゼミ学生が身辺材で制作したスタンプを用意した。これも初の試みであった。

(3) 相互鑑賞

3つ目の共通点は、作品の相互鑑賞である。ワークショップの限られた時間内で個人の作品を完成させるだけでなく、参加者による相互鑑賞の場になること、参加者に対して協働による一体感や達成感を持たせることを意図して設定した。表現と鑑賞とを関連付けるとともに、個人制作で完結するのではなく少しでも協働的な活動に近付くよう意識して取り入れた。2023年

度では、参加者による個人作品を集合させることによって共同制作にもなるよう工夫し、すべての実践に取り入れることができた。今年度は2023年度のように共同制作にはならなかったが、相互鑑賞の場を持つことはできた。学内では、完成した参加者の作品を集合させ、フクロウ・ミミズクの内部に収納したLEDランプを点灯させて会場を消灯し、参加者、ゼミ学生がともに鑑賞して楽しんだ。祇園西公民館では、記念撮影時に作品をジャングルと道に見立てた机上に集合させ、鑑賞した。こども文化科学館では、記念撮影時にお互いの作品を鑑賞したが、短時間となったため△と表記した。南観音公民館では、移動式ホワイトボードに参加者とゼミ学生の作品を集合させて展示・鑑賞した^{写真11・12}。2023年度の南観音公民館では、園芸用ネットに参加者とゼミ学生の作品を集合させて展示したが、不安定だった反省点を受けて今年度は改善した。

(4) 絵本活用

4つ目の共通点は、絵本の活用である。ワークショップの導入においてワークショップの題材に関連する絵本の読み聞かせを取り入れた。参加者の人数と会場の広さを考慮に入れ、絵本をプロジェクターで会場のスクリーンに投影しながらゼミ学生が読み聞かせを行った。参加者の動機付けを促すこと、創作意欲を高めること、題材への共通認識を促すことを意図した。祇園西公民館では、アレックス・ラティマー作、聞かせ屋。けいたろう訳『きょうりゅうかくれんぼ』(株式会社KADOKAWA、2022年)、こども文化科学館ではおくはらゆめ作『ようかいしりとり』(こぐま社、2018年)、南観音公民館では、松田奈那子『やさいぺたぺたかくれんぼ』(アリス館、2015年)を活用した。こども文化科学館では、ゼミ学生が子どもたちを近くに集めて絵本を直接見せながら読み聞かせ、「ようかいしりとり」(作詞：おくはらゆめ、作曲：種ともこ)の歌唱を行った。学内では絵本を取り入れるこ

とができなかったが、その代わりに導入では Microsoft PowerPoint を用いてフクロウ・ミミズクに関するクイズを行った。

(5) Teaching Case 使用

5つ目の共通点としては、材料を分類して収納した Teaching Case の使用が挙げられる。材料・用具は Teaching Case に入れて本学から持参したが、学内では主材料（トイレットペーパーの芯）を参加者に持参して頂いた。

(6) 複数の基本形の提示

6つ目の共通点は、参考作品を提示する際に複数の基本形を用意したことである。学内では、参加者にフクロウ・ミミズクの2種類からいずれかを選択させ、制作して頂いた^{写真13}。祇園西公民館では、段ボールで作ったガオカーの胴体を事前にゼミ学生が5種類用意しておき、1つ選んで頂いた^{写真14}。こども文化科学館では、もののけの基本形を3種類提示し、その中から1つ選んで好きなおばけ・妖怪を作って頂いた^{写真15}。南観音公民館では、段ボールで作ったダンボリースを事前にゼミ学生が9種類用意しておいた^{写真16}。参加者に1つずつ選択させ、作りたいダンボリースを制作して頂いた。複数の基本形の提示は、これまでも行ってきたが、今年度は特に意識して実践した。細見均は「家を建てる時は、基礎工事を行います。この基礎は家を支える土台で、これが傾いていたり、弱かったりすると、よい家は建ちません。作業もこれによく似ています。そこで、この基礎部分にあたるところを、一斉指導で丁寧に行い、その後をそれぞれが工夫するというはどうでしょう。私は、これを基本の形と呼んでいます。」^{引用1}と述べている。筆者も細见到同意しており、ワークショップや授業で心がけている。

表2以外の共通点としては、活動後に本学のホームページで報告を公開したことも挙げられる。ゼミ学生の卒業研究と連動させたことも同様であり、例えばモダンテクニックの活用、身

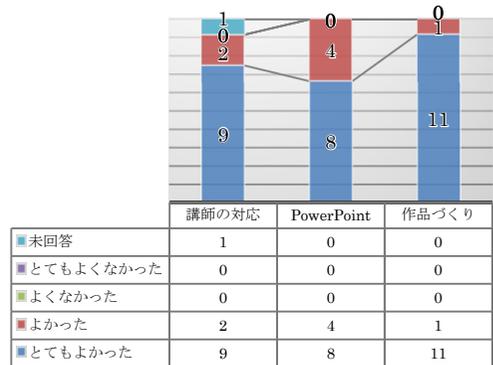
辺材の活用、もののけ（おばけ・妖怪）の題材化などが相当する。

3. 計4回の図工ワークショップの成果と課題

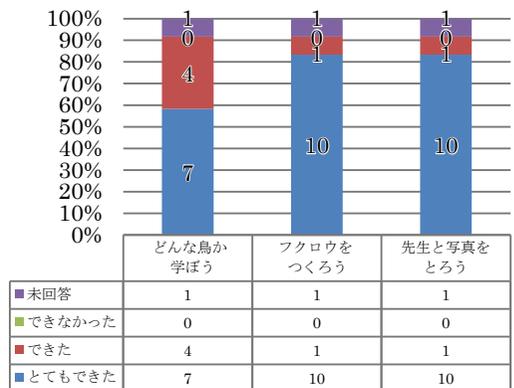
参加者を対象としたアンケートの結果、ゼミ学生による省察をもとに、図工ワークショップの成果と課題について考察する。まず、参加者対象のアンケート結果について考察する。

(1) 学内

学内では、参加者に筆者が用意したA4サイズ1枚のアンケートに回答して頂いた。参加者（ただし実際に制作をした人）12人中12人の回答であった（回収率：100%）。



【グラフ1：「みんなであそべるフクロウをつくろう！」の満足度】



【グラフ2：「フクロウ」めあての達成度】

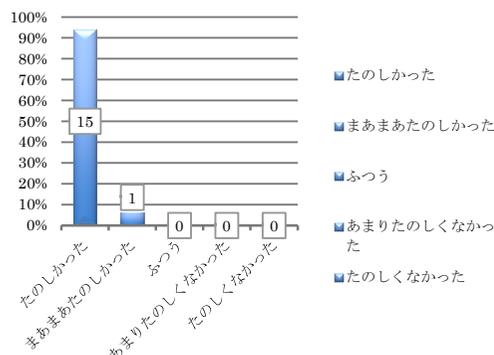
グラフ1・2の通り、満足度（筆者・ゼミ学生の対応、PowerPoint、作品づくりの3観点）、

めあての達成度ともに高評価であった。理由には、かっこいいふくろうができたから、とても楽しかった、飾り付けの材料がたくさんあったから、という肯定的な記述が散見された。

最後に、またゼミ学生と一緒に作品づくりをしたいかどうか質問した。「またしたい もうしたくない」の2択で回答して頂いた。回答者12人全員（100%）が「またしたい」と回答した。

(2) 祇園西公民館

祇園西公民館では、参加者にA4サイズ1枚のアンケートに回答して頂いた。このアンケートは、公民館が用意されたものである。ワークショップの満足度について質問した。「たのしかった まあまあたのしかった ふつう あまりたのしくなかった たのしくなかった」の5段階で回答して頂き、評価の理由も記述して頂いた。参加者16人全員の回答（回収率：100%）があり、結果はグラフ3になった。



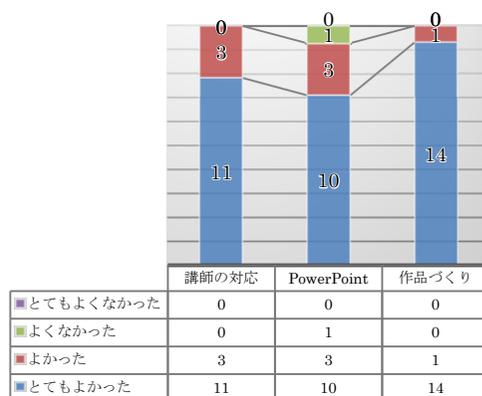
【グラフ3：「カラフル恐竜とおさんぽ～ガオカーを作ろう！～」の満足度】

15人が「たのしかった」（94%）、1人が「まあまあたのしかった」（6%）と回答している。理由としては、自分の思い通りに作れたのでうれしかった、色も多いたくさん作れたのでうれしかった、楽しかった、という子ども自身による肯定的な記述が散見された。全体的に高評価であった。

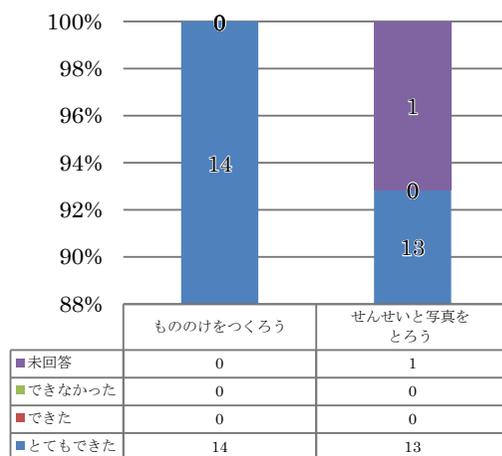
(3) こども文化科学館

こども文化科学館では、参加者に筆者が用意

したA4サイズ1枚のアンケートに回答して頂いた。参加者16人中14人の回答であった（回収率：88%）。



【グラフ4：「ヒュー！もののけ大集合」の満足度】



【グラフ5：「もののけ」めあての達成度】

グラフ4・5の通り、満足度（筆者・ゼミ学生の対応、PowerPoint、作品づくりの3観点）、めあての達成度ともに高評価であった。理由には、もののけをいっぱい作ることができて楽しかった、たくさん材料があったから楽しかった、先生たちが優しく教えてくれたから、という肯定的な記述が散見された^{註5)}。

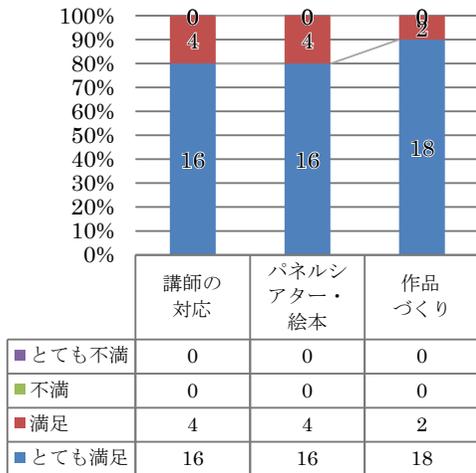
Microsoft PowerPointを用いたスライドショーについては、とてもよかった10人（71%）、よかった3人（21%）、よくなかった1人（7%）となった。理由については無記入

であったが、内容面でわかりにくい部分があったのではないかと推察する。

最後に、またゼミ学生と一緒に作品づくりをしたいかどうか質問した。「またしたい もうしたくない」の2択で回答して頂いた。回答者13人（93%）が「またしたい」、1人（7%）が「もうしたくない」と回答した。「もうしたくない」の理由は、1人で作りたいたいというものであった。

(4) 南観音公民館

参加者には、筆者が用意したA4サイズ1枚のアンケートに回答して頂いた。参加者（保護者）21組中20組の回答であった（回収率：95%）。



【グラフ6：「ミニクリスマス会」の満足度】

ワークショップの満足度について3つの観点から質問した。「とても満足 満足 不満 とても不満」の4段階で回答して頂き、評価の理由も記述して頂いた。結果はグラフ6の通りである。筆者・ゼミ学生の対応はとても満足16人（80%）、満足4人（20%）、パネルシアター・絵本の読み聞かせはとても満足16人（80%）、満足4人（20%）、作品づくりはとても満足18人（90%）、満足2人（10%）、と回答している。理由には、学生がとても丁寧に制作や子どもに関わってくれた、スタンプなど普段できないことを体験させられた、親子での時間を楽し

く過ごすことができてよかった、などの回答が見られた。否定的な回答はなかったが、待ち時間用の工夫があったらいい、小さな材料には配慮が必要である、などといった改善への示唆、建設的な意見が見られた。子どもたちの年齢が低かったため、作り方を簡略化し、題材の難易度をさらに下げた。乳幼児でも取り組めるスタンプングを取り入れたが、スタンプする作業台が狭かったため、環境構成の面で待ち時間ができてしまったことが新たな課題となった。

最後に、来年度ミニクリスマス会に参加をしたいかどうか質問した。「参加したい 参加したくない」の2択で回答して頂いた。回答者19人（95%）が「参加したい」、1人（5%）が未記入であった。

(5) ゼミでの省察

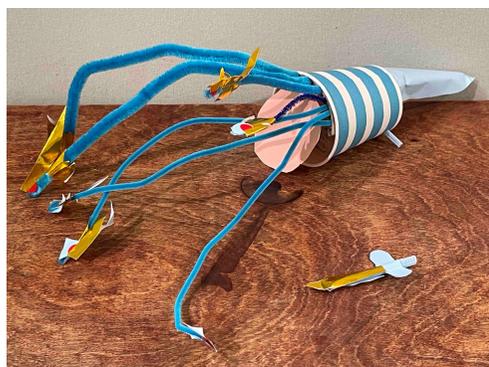
ワークショップ終了後には、教育学研究Ⅱ・Ⅳ・卒業研究において振り返りを行った。授業内で話し合いを行うとともに、ユニバーサルサポートのアンケート機能を用いて、事後学修も行った。ここでは、すべてのワークショップについて総合的に省察していく。

成果では、子ども・保護者とともに楽しく活動に参加することができた、発想・表現の豊かさに触れることで子ども理解が深まった、などの言及が多かった。課題・反省点としては、子どもの声に寄り添って具体的なアドバイスができればよかった、子どもに合わせた環境構成や時間配分が必要ではないか、などの言及があった。学内のワークショップについては、現在のゼミ学生では初めての開催であったため、新鮮であったという感想が見られた。また、ワークショップで対象となる子どもの年齢が異なるため、発達の違いに応じた支援の必要性について勉強になった、もっと学ぶ必要があるなどと言及しているゼミ学生が複数見られた。

4. 今年度の総括・今後に向けて

本稿では、今年度に行われた4つの図工ワー

クショップの実践に関する省察を行った。6つの共通点を持たせて、一貫性のある実践を目指した。結果、2023年度までには至らなかったが一定の統一感を持たせることができた。参加者とゼミ学生の評価も比較的高かった。筆者は、特に共通点の1つである複数の基本形の提示は、一定の成果があったと捉えている。参加者の中には、筆者らが提示した基本形をこえた工夫をしているものも見られた。例えば、こども文化科学館の実践では、筆者らが提示した3つの基本形以外の作り方をしている参加者がいた^{写真17}。今後も、複数の基本形を提示してどの参加者にも作りやすくするとともに、基本形から逸脱した表現・工夫にも受容的・肯定的でありたいと考えている。むしろ、このような表現・工夫を大いに推奨していきたい。



【写真17：やまたのおろち（小学2年生が作ったものけ）】

しかし、課題も認められた。2023年度と同様、南観音公民館の実践も参加者からの評価は高かったが、乳幼児向けの工夫もより必要になることが明らかになった。作品に対して参加者の手によってスタンピング（型押し）を直接行ってもらうようにすることで題材については改善できた。一方で、活動する際の環境構成などに課題が残った。

筆者は、ワークショップを表5のように分類している。筆者らの図工ワークショップは、単発・成果物重視型ワークショップと定義している。

【表5：筆者が考えるワークショップの分類】

開催方式	活動内容
単発	活動重視
連続	成果物重視

単発でありながらも、年単位では連続して行っており、今回の参加者にも筆者らのワークショップに複数回参加された方もいた^{註6}。今後も、学校教育課程、越境空間、家庭・地域の3つの場を越境し結束する「ハブ (Hub)」としての役割を目指して、ゼミ学生とともに研究・実践を地道に継続していきたい。

謝辞

学外・図工ワークショップにご参加の皆様、ご支援・ご協力くださいました広島市立可部小学校おやじの会の皆様、広島市祇園西公民館様、5-Days こども文化科学館様、広島市南観音公民館様、教育学部教育学科、関係各位に心より感謝いたします。とりわけワークショップの機会を与えてくださり、企画・運営に協力してくださった広島市立可部小学校おやじの会の原田進弥様、祇園西公民館館長・石原聖志様、祇園西公民館社会指導主事・高橋由美子様、5-Days こども文化科学館館長・中谷智子様、5-Days こども文化科学館主任学芸員・遠藤正智様、5-Days こども文化科学館学芸員・山本恵利加様、5-Days こども文化科学館学芸員・山中浩様、南観音公民館館長・樋口英子様、南観音公民館専門員・中村百花様に深謝いたします。本当にありがとうございました。

参考文献

- ・新野貴則・福岡知子編著『明日の小学校教諭を目指して子どもの資質・能力を育む 図画工作科教育法』萌文書林、2019年
- ・内野 務『造形素材にこわしい本子どもが見つかる創造回路』日本文教出版、2016年

引用文献

- ・引用1) 細見均『絵心がない先生のための図工指導の教科書』明治図書、2017年、pp. 122-123

註

- ・註1) 本稿では、ゼミ学生と表記した。正確には、教育学部 教育学科 児童教育コース図画工作科教育

学ゼミと幼児教育コース領域造形表現ゼミである。

- ・ 註2) 2011年からはじめた学外の実践は、2020年度から年3回の実施で定着している。2024年度は、学内で1回実施したため計4回の図工ワークショップとなった。今後は、年4回を基本に実施できればと考えている。今年度の楽しく遊べるフクロウは2022年のおしゃれなフクロウ、ガオカーは2021年のトナカー、ダンボリースは2020年のツリースの改良版・発展形であり、実践同士のつながりがある。
- ・ 註3) 大泉義一『子どものデザイン—その原理と実践』日本文教出版、2017年、p. 445。大泉は、子どものためのデザイン教育の場として α 学校教育課程(学校教育課程内での学びの場……教科学習、特別活動など)、 β 越境空間(学校と家庭・地域を越境する学びの場……総合的な学習の時間、放課後スクール、土曜学校、PTA行事、学校と連携した学外での活動など)、 γ 家庭・地域(家庭や地域の施設、空間における学びの場……家庭、美術館、公園、地域行事、商業施設、ボランティア施設など)の3つのカテゴリーに分類しており、青少年の健全育成のためには、学校と家庭・地域とがそれぞれの教育的

役割を明確にした上で連携していくことを通して、地域コミュニティの教育力を発揮することが求められていると大泉は述べている。

- ・ 註4) 南観音公民館ではクリスマス・イベントの色合いが強いため、絵本の読み聞かせの前にペープサートを用いたパネルシアターの実演とピアノとギターの演奏に合わせた歌唱(「あわてんぼうのサンタクロース」作詞:吉岡治、作曲:小林亜星)、サンタクロースとトナカイに扮したゼミ学生によってプレゼント配付が行われる。子どもの年齢が低いため、今日のみあての提示も行わない。
- ・ 註5) ワークショップに参加した幼児が、こども文化科学館主催の別の行事に参加した際、自分が作ったもののけの作品(ちょうちんおばけ)を小さな鞆に入れて大切に持ち歩いていたと学芸員の方からお聞きした。ゼミ学生、筆者とともにと嬉しく感じた事例であった。
- ・ 註6) 教育学部教育学科4年生(3期生)には、子どもの時に筆者らのワークショップに参加した学生が2人いる。今後も、このようなつながりが生まれることにも期待したい。



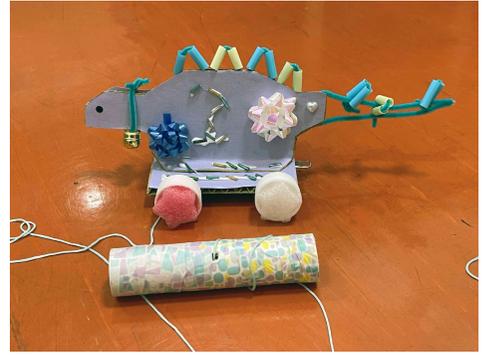
【写真1：ゼミ学生によるフクロウ・ミミズク（参考作品）】



【写真5：参加者によるガオカー①】



【写真2：参加者によるフクロウ・ミミズク①】



【写真6：参加者によるガオカー②】



【写真3：参加者によるフクロウ・ミミズク②】



【写真7：ゼミ学生によるもののけ（参考作品）】



【写真4：ゼミ学生によるガオカー（参考作品）】



【写真8：参加者によるもののけ①】



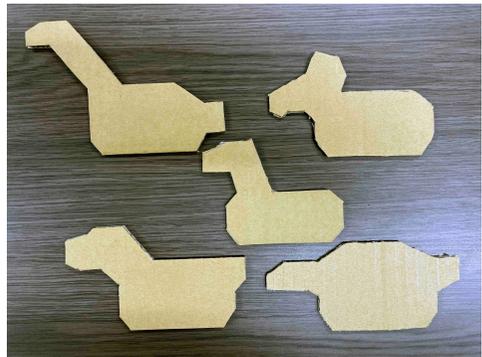
【写真9：参加者によるもののけ②】



【写真13：フクロウ・ミミズク（筆者制作の参考作品）】



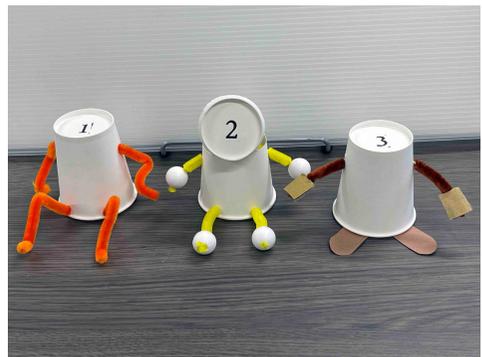
【写真10：ダンボリースにスタンピングしている様子】



【写真14：ガオカー胴体の基本形5種類】



【写真11：ゼミ学生によるダンボリース（参考作品）】



【写真15：もののけの基本形3種類】



【写真12：参加者によるダンボリース】



【写真16：ダンボリースの基本形9種類】